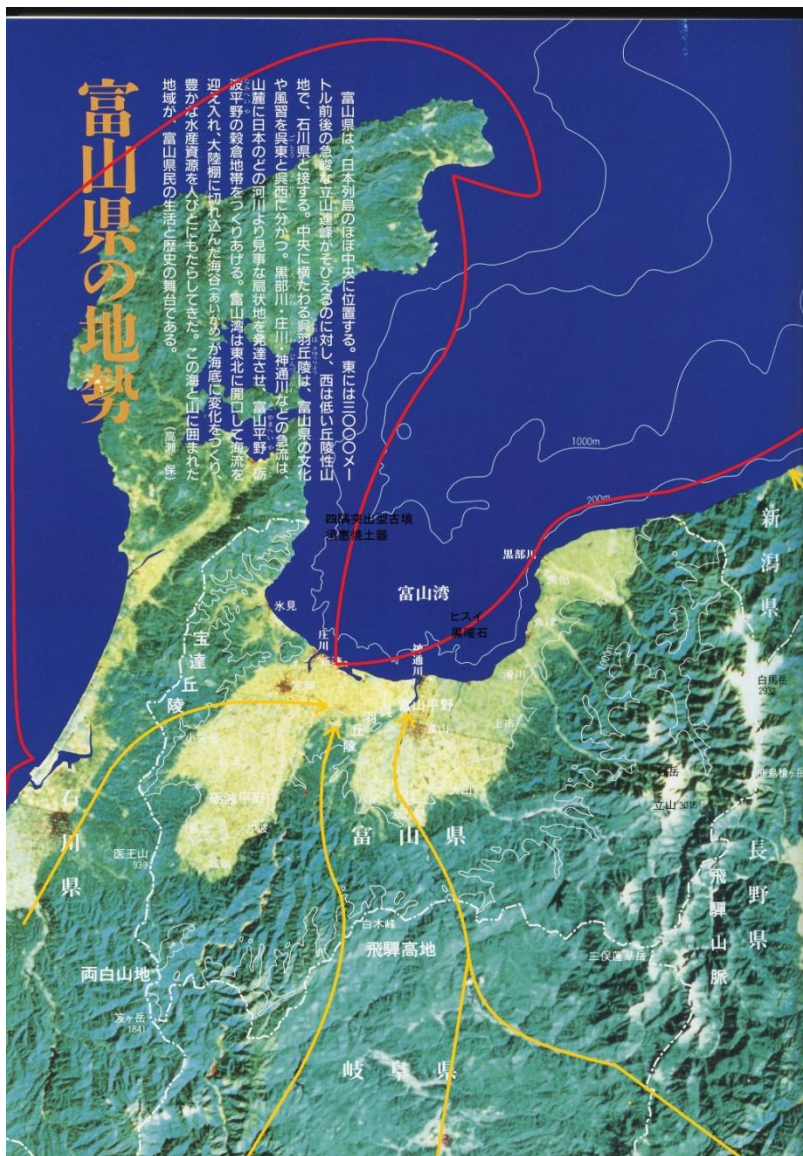


呉羽丘陵に日本海文化を探す 歴史探訪歩行会の事業概要

呉羽山観光協会「旧北陸街道を歩く」
実行委員会・会長 田 畑 宏 継

1. 呉羽丘陵とは



富山県地勢図（「図説富山県の歴史」河出書房新社発行を引用）

呉羽丘陵は、富山県内の文化を東西に二分すると云われている。それは呉羽丘陵が県の中央部に位置し、北は日本海に迫って富山市百塚で平野部に接し、南は富山市池多で飛騨山系の射水丘陵に接続する延長約 8 Km の丘陵である。

そして北から八ヶ山（標高 35.0 m）呉羽山（71.3 m）城山（145.3 m）の三つのピークを持つ比較的低い山が連なり、これら地勢的な条件が県内を呉東、呉西に二分していると考えられる。

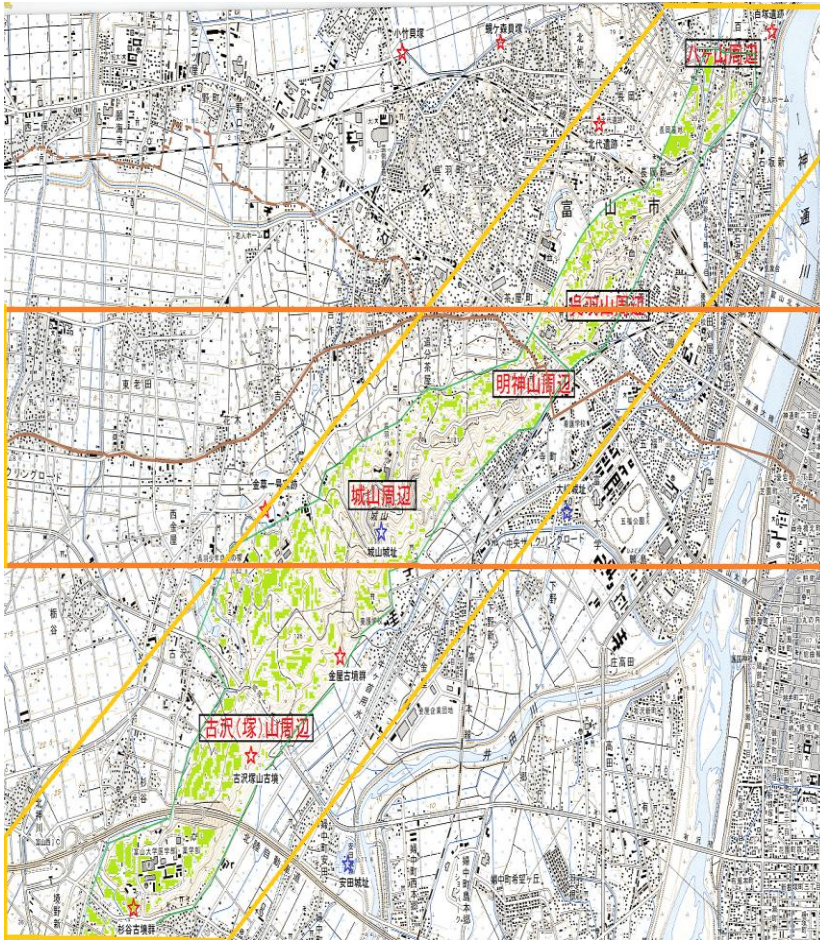
当然呉羽丘陵は、その境界にあたるわけで、山裾を含めて周辺には、北から百塚遺跡、蜆が森貝塚、小竹貝塚、北代遺跡、杉谷古墳群など遺跡が分布し、住居跡も発見されるなど古くから人が住んでいた事が確認されており生活の場であったと思われる。

また呉羽丘陵は、縄文海進の時代に蜆が森貝塚や小竹貝塚

に見られるように海が接近していた事があり、その頃から交通の難所であったと考えられ、現在は旧北陸街道が呉羽丘陵を横断し残っている。

これらから、富山に入るモノの流通や人の交流経路は、海の海路、そして山越えの陸路からで、日本海沿いを北上、あるいは南下した文化が東西の境界であった呉羽丘陵に根付いたものと考えられる。

2. 呉羽丘陵の見どころ



呉羽丘陵周辺見どころ図 (国土地理院 1/25000)

具体的にモノの流通や人の交流があった形跡を呉羽丘陵で探すと

①境野新遺跡、杉谷H、F 遺跡から旧石器時代の狩りに使われたナイフ形の石器が発見。

②平岡遺跡から管玉、勾玉が発見され、百塚遺跡からはガラス玉の副葬品が発見。

③古墳の形態では、杉谷古墳群から四隅突出型や前方後円墳等が確認。

④北押川遺跡から「たたら」、製鉄跡、金草窠跡から「須恵焼きの土器」が発見。

特に製鉄技術、須恵焼き技術等は、大陸から九州に伝わり、それが奈良、京都の都を通じて呉羽の地に伝わったと考えられる。

また「呉羽」の地名は、大陸から機織りを伝えたと言う渡来

人のクレハトリに由来し「呉服」の字が当てられ、やがて呉羽になったとされている。姉倉比賣神社の神様が機織りの神様であると云う事からも頷ける。

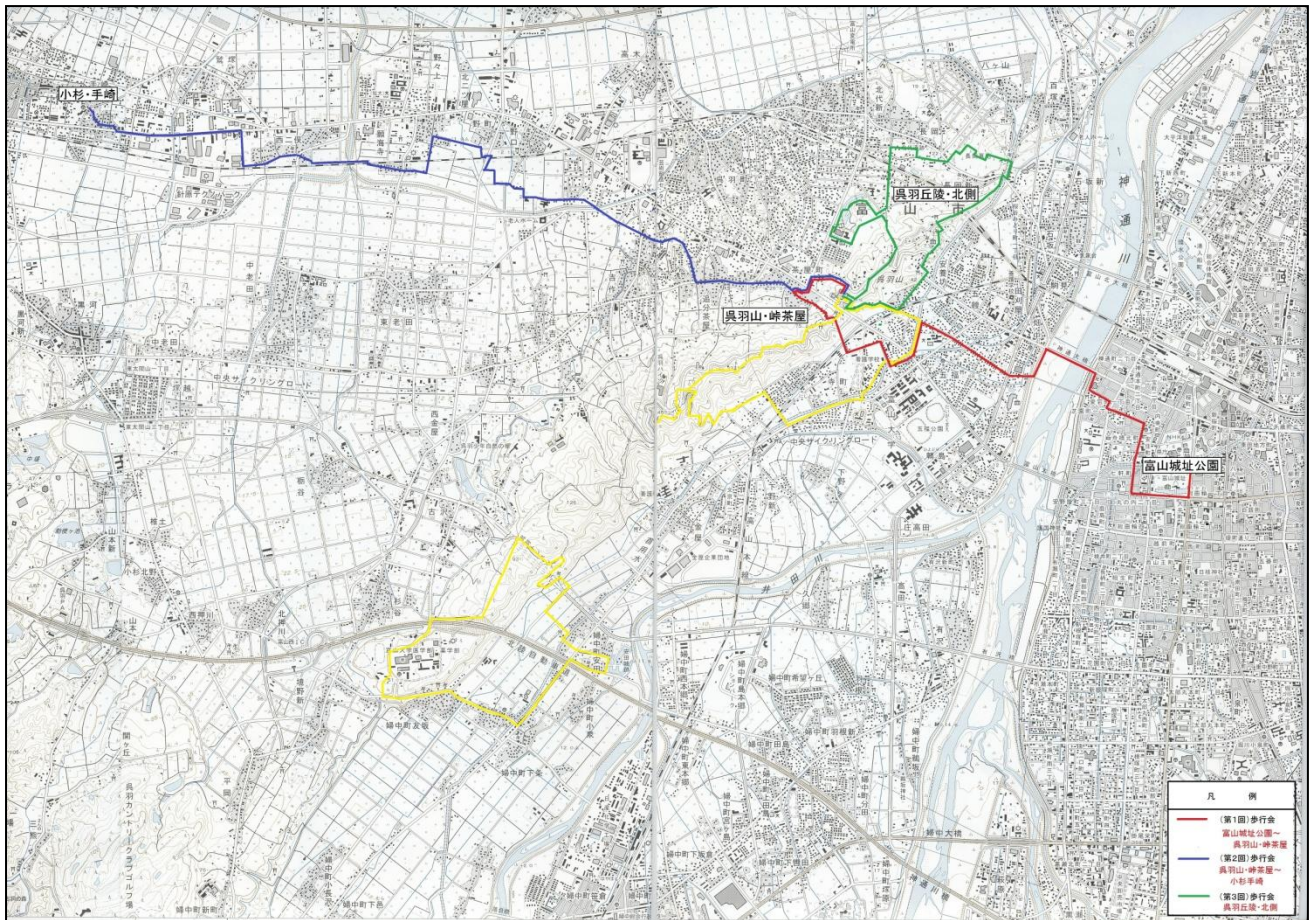
このような交流は、人の往来を以ってなされたもので呉羽丘陵には、

- ①古代の道として国府を結んでいた街道（海沿いの道、海道が街道となったともいわれる）
- ②巡見使が通った巡見使道（県道小矢部戸出富山線）
- ③北前船で運ばれた五百羅漢、苧谷石（しゃくだにいし）の石仏群などがある。

これら呉羽丘陵での交流跡に、特に陸の街道の発達が大きく貢献をしたものと考えられる。

私達は、この交流の跡を「人が住む南北軸」そして「人が行き合う東西軸」と整理している。

3. 歴史探訪歩行会の実施計画



歴史探訪歩行会の計画図 (国土地理院 1/25000)

このような二つの文化軸がクロスする呉羽丘陵を歴史探訪しようと考え、まずは交流に大きく貢献したと思われる「旧北陸街道」を取り上げ平成 20 年度、21 年度の 2 回にわたり歩行会を実施した。

その後、呉羽丘陵の南北縦走にとりかかり平成 22 年、県道富山高岡線の北側を歩行し、以降平成 23 年度より南側を実施することとしている。

4. 呉羽丘陵に日本海文化を探る歴史探訪歩行会

日本海学研究グループ支援事業の助成を得た歩行会を計画するに当たり、「呉羽丘陵に日本海文化を探る」呉羽丘陵南北縦断の見どころを整理し、PR 広報紙に掲載して五福、桜谷そして呉羽地域の 6 地区を合わせた 1. 8 万世帯に配布した。

(1) 歩行会の概要

- | | |
|-------|--|
| ①開催日時 | 平成 22 年 10 月 23 日 (土)
9 時 30 分スタート (ゴール 12 時)
所要時間 2 時間 30 分 |
| ②参加人員 | 約 324 名 (大人 321 名、 小人 3 名)
地元以外からの参加者
・南砺、高岡、氷見、滑川、射水 (25 名)
・地元以外の富山市 (41 名) |

(2) 歩行会のコース



呉羽丘陵（北側）見どころマップ

(3) 記録写真



出発・班ごとのスタート



①五福新道と「呉羽修路之碑」での説明状況



③「佐伯則重鍛刀之碑」前での説明状況



⑥長慶寺・五百羅漢前での説明状況



⑩真国寺・御廟での説明状況



⑪北代縄文広場での説明状況



⑫御野立所での説明状況



参加者の休憩、昼食・豚汁の提供